平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合に要する経費（周辺整備等）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺の環境整備に係る協定の履行について進捗状況を点検し、組合及び構成市等と協議を進める。
②①に基づく取組み結果	協定の履行について、進捗状況を点検し、組合及び構成市と協議を行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合	意図（対象をどうするのか）	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要		廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善に必要な経費の負担を行う。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		廃棄物処理施設を受け入れている地域の環境向上に向けた取り組みについて、柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合で、廃棄物処理施設周辺整備基本計画及び実施計画が策定された。周辺整備事業を早期に実現し、環境向上を図ることが求められている。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」の維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽管理等に負担金を支出した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	余熱利用還元施設利用者数	344	333	319	千人	業務取得
	ii	資源化率	20.3	19.6	17.8	%	業務取得
	iii	最終処分率	8.2	8.1	8.1	%	業務取得

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		132,398	126,874	金額（千円）	内容	132,430
	国支出金（千円）			126,874	周辺整備費	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	132,398	126,874			132,430

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	廃棄物処理施設周辺整備計画については、構成市及び県との調整を図りながら着実に進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	廃棄物処理施設周辺整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	○
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	211環境保全の促進	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に係る基本設計の作成を行うため、構成市として組合に協力する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	廃棄物処理施設周辺整備計画に基づき、構成市として組合に協力する。
②①に基づく取組み結果	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合において廃棄物処理施設周辺整備に係る基本設計が作成された。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏･白井･鎌ケ谷環境衛生組合	意図（対象をどうするのか）	廃棄物処理施設周辺環境を確保する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合が実施する廃棄物処理施設周辺整備事業に係る負担金を支払う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	廃棄物処理施設が立地する地域の環境向上に向けた取り組みである周辺整備事業は、これまで進捗が遅れてきた経緯があるため、柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合の新たな廃棄物処理施設周辺整備基本計画については、着実に実施していくことが求められている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合が行う廃棄物処理施設周辺整備事業に対する負担金を支出した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	しらさぎごみ搬入量	31,708	31,131	30,257	t	業務取得
	ii	し尿浄化槽汚泥搬入量	63.9	62.1	62.1	t	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		17,206	9,241	金額（千円）	内容	3,792
	国支出金（千円）			9,241	周辺整備事業費	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	17,206	9,241			3,792

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	事業の推進にあたっては、実施計画に基づく着実な進捗が求められているため、年度間の調整が必要となる。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	補助制度の活用など、効率的な実施を検討していく必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	負担金	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	負担金	9,241	9,241	当初	9,241	9,241	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況	完了			補正			現年分　9,241
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	生ごみ処理機等購入補助事業の普及促進を図るため、広報・ごみアプリを通して本事業案内を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	生ごみ処理容器等購入補助事業に関しては、昨年度から引き続き広報・ごみアプリでの案内を行う。また、買い物袋の持参推進運動や有価物回収も含めて効果的な広報の記事を研究する。
②①に基づく取組み結果	平成29年度は、広報には3回掲載、ごみアプリには2回掲載した。また、ホームページにごみ処理容器による実施テストの結果のレポートを掲載した。		

Ⅱ　事務.

①目的	対象	市民	意図（対象をどうするのか）	廃棄物の減量をめざし、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋の持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いを行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA（出す側）と有価物資源組合（回収側）による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	有価物回収量	1,097	1,011	901	t	業務取得
	ii	買い物袋の持参運動交換件数	13,052	12,455	12,499	件	業務取得
	iii	生ごみ処理容器補助件数	33	16	15	件	業務取得

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		13,572	12,088	金額（千円）	内容	14,478
	国支出金（千円）			8,022	有価物回収運動奨励金	
	県支出金（千円）			61	生ごみ処理容器助成金	
	市債その他（千円）			916	買い物袋持参推進運動負担金	
	一般財源（千円）	13,572	12,088			14,478

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を継続する必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合に要する経費（ごみ処理等）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	不燃ごみの処理方法について、現有処理施設の能力・性能に適合した処理方法と、処理施設の改善方法を検討する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	クリーンセンターしらさぎの延命化計画について、組合と構成市と協議を進める。
②①に基づく取組み結果	不燃ごみ処理施設の改善方法について、環境衛生組合と検討、情報共有等を行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等 ②柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合	意図（対象をどうするのか）	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減量を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要		構成団体の地区内（柏市沼南地区・鎌ケ谷市全域）で排出されたごみを適正処理するため建設時施設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取組みが求められている。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	ごみ処理費用（ごみ処理費、共同化処理費及びごみ処理施設償還）に係る負担金を支出した。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	再資源化量	6,425	6,105	5,482	t	業務取得
ii	最終処分量	2,609	2,536	2,467	t	業務取得
iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	1,182,727	1,226,554			1,293,570
国支出金（千円）			563,185	ごみ処理費	
県支出金（千円）			630,456	共同化処理費	
市債その他（千円）			32,913	ごみ処理施設償還	
一般財源（千円）	1,182,727	1,226,554			1,293,570

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	ごみ焼却施設の老朽化に対し、延命化を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、安全な安定した稼働を確保する必要がある。また、運営の効率化について、たえず検証する必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	し尿処理事務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	合併浄化槽設置補助制度についてPRを図る。また、し尿処理手数料の徴収率が低下傾向であるため、その向上のため、催告等の強化を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	合併処理浄化槽設置補助制度について周知PRを図り、更なる設置に向けて調査・研究をする。また、し尿処理手数料の徴収率が低下傾向であるため、その向上のため、徴収の強化を行う。
②①に基づく取組み結果	補助金を利用した合併処理浄化槽設置基数が、目標の20基に達した。次年度合併浄化槽設置に向けて調査を行った。また、催告については、4回の実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①汲取り便槽を使用している市民等 ②下水道事業認可区域を除く市域に合併浄化槽を設置しようとする者	意図（対象をどうするのか）	①し尿による水質汚濁の防止及び生活環境補の保全 ②家庭から出る生活雑排水の水質汚濁物質の軽減
②事務事業の概要	し尿収集運搬及びし尿処理手数料徴収を行う。また水質汚濁を防止するため合併浄化槽の設置を補助する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	長期的には、公共下水道の整備により汲取り世帯及び単独浄化槽世帯の減少が見込まれる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	合併処理浄化槽を新たに設置するものに、設置費の一部について補助を行った。（20件）

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	し尿収集・運搬率	100	100	100	%	業務取得
	ii	し尿処理手数料徴収率	97.8	97.6	97.5	%	業務取得
	iii	補助金利用設置合併浄化槽基数	18	20	20	基	業務取得

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	94,218	94,259	金額（千円）	内容	94,655
国支出金（千円）	3,074	2,958	12,286	合併浄化槽設置	3,074
県支出金（千円）	6,470	4,642			4,754
市債その他（千円）	14,128	13,510			12,545
一般財源（千円）	70,546	73,149			74,282

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	単独浄化槽から合併浄化槽への転換の件数が伸び悩んでいる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	合併浄化槽設置補助事業は効果的な補助制度とするため、精査検証を行っていく。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合に要する経費（し尿処理等）	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	中川　聡			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	アクアセンターあじさいの修繕計画について、環境衛生組合及び構成市との調査協議を引き続き行っていく。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	アクアセンターあじさいの修繕計画について、環境衛生組合及び構成市と調査・協議を行ったうえで作成する。
②①に基づく取組み結果	焼却施設の延命化等の計画と整合を図る必要があるため、あじさいの修繕計画の調査協議については、引継に協議していくこととなる		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	①公共下水道を使用していない者 ②柏・白井・鎌ケ谷環境衛生組合	意図（対象をどうするのか）	し尿及び浄化槽汚泥の適正処理
②事務事業の概要	構成団体（柏市沼南地区・白井市・鎌ケ谷市）の地区内で排出されたし尿、浄化槽汚泥を適正処理するために施設維持管理等の経費を負担する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。長期的に公共下水道供用開始区域の拡大により処理量の減少が見込まれる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	し尿処理費用に係る負担金を支出した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	処理率	100	100	100	%	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		186,982	179,884	金額（千円）	内容	172,212
	国支出金（千円）			41,253	管理費	
	県支出金（千円）			138,631	し尿処理費	
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	186,982	179,884			172,212

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	脱水汚泥焼却炉等、各設備の老朽化が進んでいるため、必要な修繕計画を検討していく。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					